

平成28年度



第6回 大垣市小・中学生 オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣団



第6回 大垣市小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣団

団員名簿(学年、五十音順)

派遣期間：平成28年8月17日(水)～8月24日(水)

No.	役名	氏名	性別	学校名・学年
1	団長	さかい としのり 酒井 俊亘	男	南小学校 校長
2	総務兼 通訳	かわむら まい 河村 麻衣	女	西部中学校 教諭
3	総務	うすい れいか 臼井 伶佳	女	(公財)大垣国際交流協会 職員
4	団員	えはら こうこ 江原 煌子	女	安井小学校 6年
5	団員	なかにし みら 中西 美来	女	日新小学校 6年
6	団員	みわ ななせ 三輪 七星	女	多良小学校 6年
7	団員	やすだ しょうせい 安田 翔星	男	綾里小学校 6年
8	団員	なかお ゆき 中尾 友紀	女	南中学校 1年
9	団員	もりかわ すずな 森川 鈴菜	女	赤坂中学校 1年
10	団員	なかさと ゆか 中里 友佳	女	東中学校 2年
11	団員	まつもと ゆうは 松本 優羽	男	江並中学校 2年
12	団員	やまざき みや 山崎 美弥	女	北中学校 3年

第6回 大垣市小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣団 日程表

派遣期間: 平成28年8月17日(水)～8月24日(水)の8日間

派遣人数: 12人(引率者3人(団長1人、総務2人)、小学6年生と中学生9人)

月日	現地時間	交通機関	日 程	朝	昼	夜
1	8月17日 (水)	10:45	バス	スイトピアセンター学習館1階エントランスホール集合 大垣市発、中部国際空港へ 中部国際空港着	移動	機内
		11:00				
		13:00	日本航空(JL3084)	中部国際空港発(成田行き、JL3084)		
		14:50				
		16:00	日本航空(JL771)	成田国際空港着		
		19:25				
【機内泊】						
2	8月18日 (木)	6:10	カンタス航空 (QF417)	シドニー空港着 シドニー空港発(メルボルン行き、QF417) メルボルン空港着(市役所担当者の出迎え)	機内	グレン アイラ市役所
		8:30				
		10:05	迎えのバス	バスでグレンアイラ市役所へ移動 昼食		ホーム ステイ
		11:30				
		14:30-15:30	バス	コーフィールド小学校訪問 市役所にて歓迎レセプション(ホストファミリーと対面)その後各家		
		16:00-17:00				
【ホームステイ①】						
3	8月19日 (金)			《グレンアイラ市》 グレンアイラカレッジ(中高一貫校)訪問 (学生交流、オーストラリア文化体験、授業体験) ホストファミリー宅へ	ホーム ステイ	ホーム ステイ
【ホームステイ②】						
4	8月20日 (土)			《グレンアイラ市》 各ホストファミリーと1日過ごす	ホーム ステイ	ホーム ステイ
【ホームステイ③】						
5	8月21日 (日)			《グレンアイラ市》 各ホストファミリーと1日過ごす	ホーム ステイ	ホーム ステイ
【ホームステイ④】						
6	8月22日 (月)	9:00	バス	《グレンアイラ市》 グレンアイラカレッジ出発、メルボルン市内見学 ヤラリバー ユレカタワー	移動	メル ボルン市 内
		9:40				
		10:00	徒歩	サウスバンクを通りフェデレーションスクエアへ 昼食		ホーム ステイ
		11:30				
		12:00	バス	メルボルンスター大観覧車 グレンアイラカレッジ到着 ホストファミリー宅へ		ホーム ステイ
		13:30				
		15:30				
【ホームステイ⑤】						
7	8月23日 (火)	7:00	カンタス航空 (QF418)	グレンアイラカレッジ集合後、空港へ メルボルン空港発(シドニー行き、QF418) シドニー空港着	移動	シド ニー市 内
		9:00				
		10:25	旅行会社手配バス	シドニー見学 ミセス・マッコリーズ・チェア 昼食		ホーム ステイ
		10:30～				
		11:30	↓	オペラハウス、ワイルドライフシドニー、ロックス、 タウンホール見学、買い物		
		12:00				
		13:15～		ホテル着 夕食		
		18:00				
		19:00				
【ホテル泊(シドニー)】						
8	8月24日 (水)	5:30	旅行会社手配バス	ホテル発 シドニー空港発(成田行き、JL772) 成田空港国際着	移動	機内
		8:15				
		17:05	日本航空(JL772)	成田空港国際発(中部行き、JL3087)		
		18:30				
		19:40	日本航空(JL3087)	中部国際空港着		
		21:30頃				
【バス】						
スイトピアセンター文化会館ロータリー到着・解散						

第6回大垣市小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣を終えて

大垣市立南小学校 校長 酒井 俊亘

1 はじめに

5回の事前研修と8日間のオーストラリアでの研修を通して、兄弟姉妹のように仲良くなった市内の小学生4人と中学生5人は、グローバル社会に生きる素地を身に付け、グレンアイラ市との友好の絆を深める人材となることができましたと思います。具体的な内容については、各団員の文章から読み取っていただきたいです。私自身もこの研修を通して、自分の狭かった視野、ものの見方・考え方を直視し、もっと、国際的視野に立って子どもたちを育てていかなければならないと実感しました。

2 研修を通して

今回、ホームステイをさせていただくことによって、観光では味わえないオーストラリアの日常生活を体験することができました。イスタンブール風の朝食、犬の散歩、息子のローラーホッケーの練習見学、家での卓球対戦、スコットランドの民族衣装での記念撮影などなど。

また、朝、ホームステイ先で教えてもらった公園にジョギングに出かけました。芝生のエリアでは、多くの人が休日にバーベキューをしながら語り合うそうです。しかし、少し走ると、景色は一変し、ブッシュや湿地、小さな池もあり、野生の鳥やウサギが跳びまわっていました。一人で走っていると、森の中に迷い込んでしまったような気がしました。人が住みつく以前からの自然がそのまま残っているのです。公園として開発をしながら、野生の状態も残すという都市計画を実践しているのです。一周10km以上もあり、走っても1時間以上かかるような公園が、オーストラリアの至るところにありました。そこに、人間本位の開拓ではなく、動物との共生を考えたオーストラリアの人々の懐の深さを感じました。

私たちは、オーストラリア人とひとくくりで呼んでいますが、オーストラリアは様々な人種で構成された多民族国家です。いろいろな国からやってきた人々が、オーストラリアと一緒に定住しました。それぞれの文化や生活習慣の違いを認め、一つの国の人間として共に生きています。まさに、共生の国です。

研修の中で、私自身、日本との違いに驚くことがたくさんありました。人々が様々な国からやってきたのですから、最初は、それぞれの違いに驚いたのだと思います。しかし、驚きの後には、2つの道があります。1つは、hateして排除するという道、もう1つは、likeして取り入れていくという道。その中間もあるでしょうが、hateでは、この国は成り立たなかったため、違いを乗り越えるために、細かいことにはこだわらず互いを認め合っていく「寛容」という国民性を築き上げてきたのでしょう。人種が違ってもしっかりとした寛容な国民性をもつこの国の人を、私たちはオーストラリア人と総称しているのです。1つの価値、1つの見方だけに流されやすい日本人が、グローバル社会で生きていくためには、オーストラリア人のような自由な見方・考え方のできる「寛容さ・柔軟さ」を学ぶべきであると思いました。

3 おわりに

今回の研修にあたり、大垣市国際交流協会をはじめ、コーフィールド小学校、グレンアイラカレッジ、グレンアイラ市関係者など、たくさんの方々からのご支援をいただきました。それによって、私共が多くの成果を得て、無事、研修を終えることができましたこと、研修団を代表して心より厚くお礼を申し上げます。



グレンアイラ市研修派遣を終えて

大垣市立西部中学校 教諭 河村 麻衣

今回の研修において、総務兼通訳として参加させていただき、大きく分けて2つの視点から、多くのことを学ぶことができました。

1つめは、一教師として、子どもたちが英語を学ぶ上で必要なこと、困難さ、そして達成感です。今回の団体のスローガンに掲げたように、「積極的に」と、頭では分かっている、実際に外国の方を目の前にしたときに、自ら英語を話すことは、子どもたちにとって容易ではないということが、ホストファミリーとの初対面のときに伝わってきました。しかしその緊張した様子は、日が経つに連れて次第に変わっていきました。はじめはホストファミリーの質問に対して「YesかNo」で答えるだけだったのが、自然と自ら話そうという姿勢に変わっていったようでした。各ホストファミリーで過ごした土日を終え、月曜日にグレンアイラカレッジで子どもたちに会った時に「How was your weekend?」と質問すると「Ah…」という返事が返って来たときに、もうすっかり英語の脳になっているのだと感じました。そこには、意思を伝えなくてはならないという必然性はもちろん、言いたいことが伝わったときの嬉しさや達成感があるようにも思えました。これは初日に訪問したコーフィールド小学校での日本語バイリンガル教育の様子からも学んだことの1つでもあります。私たちの顔を見るなり「こんにちは」と日本語で話しかけてくれた小学生の子どもたちには感動しました。母語が違って、共通の言語を使うことでコミュニケーションを図れることの素晴らしさを、子ども

たちが身をもって体験できたことに、今回の研修の意義があったと思いました。

2つめは、一日本人として、自分たちの文化の素晴らしさを再認識し、伝えることの必要性です。歓迎レセプションの際にリコーダーと歌の発表をしましたが、どちらも素晴らしかったという感想をいただきました。「全員が気持ちを揃えて演奏すること」。これも日本文化の

良さです。しかし、子どもたちが自分たちの文化についてどれだけのことを理解し、伝えることができたかという、まだまだ足りない部分も多くあったと思います。グレンアイラ市役所にあった「OGAKI ROOM」には、松尾芭蕉の絵と俳句が飾ってありましたが、日本の文化や特徴を、私たちがいかに誇りに思い、自信を持って伝えられるかどうかは、今後の課題にもなってくると思いました。また、日本のお土産に喜んでもらえたことはとても嬉しかったです。折り紙には感動され、中でも、何枚もの折り紙を組み合わせて作った「くす玉」をグレンアイラカレッジの先生方にプレゼントすると、喜んで職員室の机の上に飾って下さいました。同じように、私たちが頂いた、「また戻って来られるように」という思いのこもったアボリジニーアートのブーメランも、とても嬉しく感じました。互いの文化を尊重しながら、違いに触れ、そして認め合うことで、言語の違いを越えて人と人との関わりの中で、あたたかいものが生まれた瞬間のように思えました。

最後に、このような研修を通して、子どもたちは英語を学ぶことに加え、人との繋がり、自分自身の成長、日本や大垣の文化の伝承など、多くの面で成長したようでした。私自身も、グレンアイラの方々のあたたかさに触れながら、貴重な出会いをし、成長することができました。これは、私たち団員に最後まで親切にしてくださいました多くの皆様のおかげだと思っています。今後はこの研修で学んだことを生かし、団員一人ひとりが今後の生活で生かしていけることを願っています。



研修を終えて

公益財団法人大垣国際交流協会 臼井 伶佳

大垣市とグレンアイラ市は、昭和48年ごろから市民交流が深められてきましたが、昭和63年にフレンドリーシティとしての交流が始まり、当協会による小・中学生の交流は、今回で6回目になります。

今回の研修派遣では、8月17日～24日の8日間という短い日程の中、先生方をはじめ、とても仲の良い小・中学生9人の子どもたちとともに、グレンアイラ市役所訪問やコーフィールド小学校、中高一貫校のグレンアイラカレッジ訪問、メルボルン市内見学など多くの場所を訪れ、ホームステイなどの交流を通して貴重な経験をしました。私自身、普段使わない英語を使ってコミュニケーションをすることは思った通りに気持ちが伝わらず、またオージー・イングリッシュ（オーストラリアの英語）が分からないことや、相手が話すスピードについていけず、もどかしい気持ちがありました。しかし、コミュニケーションとは言葉を交わすだけでないことが、子供たちの姿を見て感じ、そして異なる文化・歴史・価値観などに触れ、国際社会の中で共生するということの大切さをこの研修派遣を通して体感することができました。



【出発の日】大垣を出てセントレア、成田、シドニーと乗り継ぎを経て、やっとメルボルン空港に到着しました。グレンアイラ市役所の職員のロビンさんが「こんにちは！」と覚えてた日本語で出迎えてくれたことや、その日は冬の気候にも稀にみる暖かい陽気で、「It is a lovely day! 派遣団の皆さんを歓迎しているようですね。」とフレンドリーに歓迎してくれたことがとても嬉しく、また、オーストラリアの方の優しさと豊かな心に触れました。

【グレンアイラカレッジ訪問】翌朝、学校の生徒と一緒に交流会をしたあと、団員たちは別々にわかれてホストファミリーの子と一緒に1日授業を受けました。休み時間の様子を見学していると、ホストファミリーの子とその友達と輪になって会話を楽しんでいて、歓迎レセプションで初対面したときの戸惑いがすっかりなくなっていました。そこには、知っている単語を使って言葉のキャッチボールを楽しみながら熱心に交流する姿がありました。授業体験の感想についても、「授業中なのにホストファミリーの子が気にかけてくれたのが嬉しかったし、習っていた内容だったら、きっと楽しいと思う。」と教養の重要性や言葉が分からなくても前向きに理解しようとする姿、相手と向き合い信頼関係をはぐくむ大切さを体験できたのではないかと感じましたし、私自身も改めてその大切さを感じさせられました。

今回私たちは、リコーダーと合唱による発表やホームステイの生活、対話を通して日本の文化・習慣を紹介しながら相互交流を深めてきました。また、オーストラリアの広大な土地と歴史を体感し、交流を通じて、多様な文化が共生していくための手掛かりを学び、人々の結びつきを深めることができたこの研修は団員のみなさんにとっても、私自身にとってもかけがえのない経験となりました。最後に、グレンアイラ市役所、グレンアイラカレッジ、コーフィールド小学校、ホストファミリーのみなさまに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



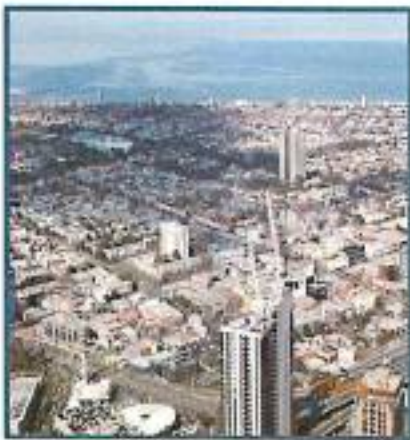


オーストラリアの思い出



事前研修～出発まで

大垣市立北中学校3年 山崎 美弥



第1回目の事前研修で私たち団員は初めて今回研修を共にする仲間と顔を合わせました。一人一人が自己紹介をし、お互いに名前や好きなものを知っていききましたが、学校も学年もそれぞれ違うので、なかなか会話は生まれませんでした。

しかし、2回目の事前研修の最初にあったフリータイムでみんなが他の団員全員と交流することができたので、それをきっかけに少しずつではありましたが、男女や学年関係なく、コミュニケーションをとれるようになってきました。

第2回の事前研修では、パフォーマンス決め・目標決めをしました。目標は「一回一回の出会いを大切に」という意味を込めて「一期一会～積極的に学び高め合う～」に決まりました。この自分から動くということが大切になってくる目標はもともと積極性を持ちたいと考えていた自分にとっても合っていると感じたので常に頭に入れて生活していきました。そして、パフォーマンスはリコーダーで「威風堂々」と「オーラリー」、アカペラで「believe」に決まりました。この日から、パフォーマンス練習が始まりました。最初は正直、どれもバラバラでした。しかし何回も練習を重ねていくうちに、全体の音や動きがそろそろようになっていきました。

3回目の事前研修では、世界がもし100人の村だったらということを題材に国際問題や今の世界の現状について学びました。私たちは、普段、当たり前のように屋根のある所で十分な食事をし、寝ているけれど他の国ではそれが出来ない人達がいるという事実を知り、世界に向けての視野を広げなければいけないと思いました。みんなが真剣に学べていて、良い姿が多く見られました。

第4回目の事前研修では2、4年前に研修に行かれた先輩に話を聞くことが出来ました。食事の事、困ったことなどみんな聞きたい事が聞けたらしく、会が終わった後は「安心したよ。」と不安が和らいだようでした。私はこの会によって、よりグレンアイラに行くのが待ちどろしくなりました。

4回目の研修ということもあり、英語講座もスムーズに進むようになってきました。気づかないうちに全体的に短い期間でとても進歩していました。

5回目の事前研修では気持ちも固まり、みんなが真剣な表情で出発式に臨むことが出来ました。様々な方に激励の言葉をいただき、私はより気持ちが高まりました。

何回もの事前研修を経て、オーストラリアに研修へ行く準備を整えていきました。もちろん、それだけでなく、昼食や空いている時間を様々な話をして過ごし、団員同士の絆も深まっていきました。

最初はオーストラリアの知識もあまり、なかったり、団員同士の会話も少なかったのですが、不安はたくさんありましたが、事前研修を重ねていくうちに自信を持てるようになり、17日を一つの心配もなく迎えることが出来ました。



コーフィールド小学校

大垣市立日新小学校 6年 中西 美来



2日目はグレンアイラ市内のコーフィールド小学校の見学でした。私たちがバスで到着すると、“Japanese student!!”と言って近くに寄ってきてくれたり、日本語で「こんにちは」と声をかけたりしてくれました。

校長先生が出迎えてくださりお話しをうかがいました。コーフィールド小学校では5歳から12歳までの子どもが通っていること、英語と日本語のバイリンガル教育をしていることがわかりました。

たくさんの語学を学ぶことで、豊かな人間性と思考力をもった子どもを育てることを重視しているそうです。日本人の教師も数名います。

最初に5歳児（年長）のクラスで私たちの歓迎レセプションがあり、コーフィールド小学校のみなさんと歌を歌ってくれました。私たちは事前研修で練習していたリコーダーで「オーラリー」・「威風堂々」を演奏し、「ビリーヴ」を歌いました。その後、みんなでフォークダンスの「ジェンカ」を踊りました。言葉の壁を越え、みんなで一緒に踊るのはとても楽しいひと時でした。



最初に5歳児（年長）のクラスで私たちの歓迎レセプションがあり、コー

フィールド小学校のみなさんと歌を歌ってくれました。私たちは事前研修で練習していたリコーダーで「オーラリー」・「威風堂々」を演奏し、「ビリーヴ」を歌いました。その後、みんなでフォークダンスの「ジェンカ」を踊りました。言葉の壁を越え、みんなで一緒に踊るのはとても楽しいひと時でした。

次に6年生の授業を見学しに行きました。驚いたことに、算数の授業が日本語で行われていました。日本語の上達のために、英語を使ってはいけないそうです。

だからどの子も日本語がうまいのだと感心しました。週に12時間もの時間を日本語学習にあてているそうです。

5年生のクラスにも行きました。ここでは図形を使ったビンゴをしていて、楽しみながら図形を覚えていました。地理の授業では、世界地図をノートに描き、それぞれの国の国旗を描いていました。どれも効率よく、なおかつ楽しみながら勉強できるシステムでした。日本の授業でもぜひ真似をして欲しいです。

5年生のクラスにも行きました。ここでは図形を使ったビンゴをしていて、楽しみながら図形を覚えていました。地理の授業では、世界地図をノートに描き、それぞれの国の国旗を描いていました。どれも効率よく、なおかつ楽しみながら勉強できるシステムでした。日本の授業でもぜひ真似をして欲しいです。



小学校の玄関には、オーストラリアの国旗の他、日本の国旗も並んで飾られていました。コーフィールド小学校は、大垣市立中川小学校と姉妹校です。これからもずっと大垣市とグレンアイラ市の友好関係が続き、日本とオーストラリアの橋渡しができればいいなと思いました。



小学校の玄関には、オーストラリアの国旗の他、日本の国旗も並んで飾られていました。コーフィールド小学校は、大垣市立中川小学校と姉妹校です。これからもずっと大垣市とグレンアイラ市の友好関係が続き、日本とオーストラリアの橋渡しができればいいなと思いました。

歓迎レセプション

大垣市立江並中学校 2年 松本 優羽

僕たちは、事前研修で歓迎レセプションの出し物を何にするか話し合い、リコーダーの演奏と合唱を披露することを決めました。練習し始めたばかりのころは、なかなかうまくいかなかったけれど、何度も挑戦を続けるうちに、だんだん息が合うようになってきました。



そして、歓迎レセプション当日を迎えました。会は、グレンアイラ市の市長さんの話から始まり、あたたかい歓迎のお言葉を頂きました。次に酒井先生が、僕達の住んでいる大垣や僕達の目標である『一期一会』の説明などを話してくださいました。



そしていよいよ僕達の出番がやってきました。はじめの礼をしっかりそろえ、指揮者が手をあげると、全員一斉にリコーダーを構えました。1曲目に『威風堂々』、2曲目に『オーラリー』を演奏しました。大きなミスもなく、美しい音色を響き渡らせることができました。3曲目はアカペラで『ピリブ』を合唱しました。練習の時、出だしがそろわなかった時があったから不安でしたが、しっかりとそろえることができました。そしてすべての出し物が終わると、大きな拍手がわきあがって、本当にうれしかったです。心を1つにして演奏や合唱をつくっていくことに、嬉しさや喜びを味わうことができました。その後、それぞれのホストファミリーと対面し、ホームステイが始まりました。



今回の歓迎レセプションは、1人1人がよりよい合唱や演奏にしようという志を持って行うことができたから成功し

たのだと思います。だから、心を1つにすることは、集団で何か成功させるために、最も大切なことなのだ、改めて思いました。全員で発表したあの10分間は今でも忘れられません。



グレンアイラカレッジ訪問

大垣市立多良小学校6年 三輪 七星

私たちは8月19日にホストファミリーとグレンアイラカレッジに行きました。グレンアイラカレッジは、中高一貫校の男女共学の学校でした。私は学校に行くときにホストファミリーの車に乗せてもらいました。まず学校についたら他の派遣団の皆が揃うまで自由時間でした。私はここで一つ驚いたことがあります。それは自由時間がほんとに自由時間だったことです。日本の学校だったら自由時間に中庭に出ることはあまりないと思いますが、この学校は中庭でバスケットボールをしたりスケートボードに乗ったりと、皆すごく自由に過ごしていました。

そして、その後歓迎会をしていただきました。そこでは司会の方が、日本語をしゃべってくれたり、みんなで日本の国歌を歌ってくれたりとても手厚く歓迎してもらえました。

私たちは、8年生の人たちに美術を教えてもらいました。日本とは違う授業で、しかも途中でおやつができました。オーストラリアのお菓子ティムタムなどができました。



次にホストファミリーのクラスの授業を見学しました。まず、体育でした。体育は、リレーとバスケットボールでしたが、私たちは、バスケットボールをやらせてもらいました。周りの生徒はとても上手な人が多かったです。

次は数学の授業でしたが日本とは進み具合が違うようで、私達6年生が1学期にやることを7年生のクラスでやっていました。だから私でも内容が分かったのでやったことのある授業の英語版を聞いていい体験になりました。

その後、昼食を食べました。昼食は、各自が持参で、日本のように給食はありませんでした。廊下を歩いていると廊下で昼食を立ちながら食べている人がたくさんいました。私たちは、図書室で昼食を食べました。日本では絶対に立ちながら昼食を食べることなんかできないのに皆がしてびっくりしました。おやつを持ってきて食べている人もいました。図書室はパソコンがたくさん置いてあったり、ポケモンをしている人がいたりして、とても日本ではありえないと思いました。漫画のコーナーで、日本の漫画が置いてあったのを見て、日本の漫画は世界で有名なんだと改めて気付きました。



日本と違うと思った点がまだまだたくさんあります。この学校は、公立なのに、制服が可愛かったし中学一年生と言わずに七年生と呼んでいた事など、まだまだたくさんあります。

この訪問でみんな優しく接してくれたり、日本のことを知ろうとしてくれたりしたのでもう一度行ってみたいと思うそんな学校でした。

グレンアイラカレッジ訪問

大垣市立綾里小学校6年 安田 翔星

研修3日目は、近くの中学生、高校生の人を通うグレンアイラカレッジに訪問に行きました。はじめにグレンアイラカレッジの人たちに、僕は、リコーダーを披露しました。そして、グレンアイラカレッジの人たちは、歌とバイオリンを披露してくれました。とてもきれいな音色と歌声だったので、心を奪われました。

1時間目は、アボリジニの伝統の石に絵を書くことをやりました。先生の言っていることは英語でわからなかったけど、同じ班の人たちがやって見せてくれて、一生懸命に教えてくれました。初めて石に絵を書いたのであまり上手ではなかったけど、とても上手だと、褒めてくれました。

2時間目は、体育の授業を受けました。初めは、緊張してなかなか輪に入れなかったけど、次第に打ち解けることができました。みんなが参加していて、みんなバスケットボールが好きなのだと思いました。



休み時間には、りんごやクッキーを食べている人が、たくさんいました。ぼくは、グレンアイラカレッジの人にクッキーをもらいました。日本は、学校に食べ物を持って行ってはいけないので、うらやましいです。

ランチは日本と違って、どこで食べてもよく、僕はグレンアイラカレッジを案内してくれた生徒と外で食べました。

ランチの後、図書室に行きました。そこでは、パソコン



ンを使っている人がたくさんいました。

授業を見学して思ったことは、パソコンを使った授業が多く、ふざけている人がいても注意していないことに驚きました。日本の学校は、すぐ注意されるので、驚きました。

職員室は、大きな机を囲んで朝は、先生同士でしゃべっていて、とてもにぎやかでした。日本の職員室は静かにしなければいけないので驚きました。

僕は、とても緊張していたけど、みんな片言の日本語で「コンニチハ」といってくれました。グレンアイラカレッジの訪問は、驚きがたくさんあって楽しい訪問になりました。



メルボルン見学

大垣市立南中学校 1年 中尾 友紀

オーストラリア研修の6日目は、メルボルンの市内観光に出かけました。メルボルン市内は、昔の洋風の建物と近代的なビルが混在する街でした。



まず最初に、ユーレカ・スカイデッキ88に登りました。ここは、南半球で最も高い展望台で、地上から300メートルの所にあります。そして、南半球で最も速いエレベーターがあり、40秒足らずで、最上階に到着することができました。私達は、「ザ・エッジ」という空間に入りました。ここは、ガラスキューブのようなものが、長さ3メートル、地上300メートルの所にせり出して作っ



てあり、足元から地面を眺められるというスリル体験が出来る世界で唯一の展望台でした。地上300メートルのガラス張りの床から下を眺めると、怖くて足がすくみましたが、真上から景色が見られるという貴重な体験ができました。その他にも、近代的な背の高いビル群を見ることができて、街に活気があり、発展してきていると感じました。

次に、フェデレーションスクエアという、ショップやレストランがたくさんある場所に行きました。日本の商店街のような、通り一帯にショップが並んでいる所を散策しました。オーストラリアらしいお土産を買うこともできて楽しかったです。ショップで買い物をして、驚いたことがあります。



それは、何個か買ってもお土産用の小袋をつけてくれないこと、店員が無愛想でやる気のない感じだったこと、価格がしっかり明示されていないので、そのたびに「How much?」と聞かなければならなかったこと、割れやすい物を買っても包んでくれないことなどです。日頃、私達が日本で何気なく買い物をする時に当たり前だと思っていた、接客する時のおもてなしの気遣い、心の温かさ、買い物のしやすさを改めて発見できたいい機会となりました。

そのあと、昼飯をとりました。ハンバーガーと、ピザとポテトを食べました。ハンバーガーは、とても大きいサイズで、日本のハンバーガーの2倍くらいあり驚きました。トマトや野菜がたくさんはさんであって、ボリューム満点ですが、食べにくかったです。

次に、観覧車に乗りました。この観覧車は、1台に20人も乗ることが出来る大きなもので、日本ではありえない大きさなので驚きました。この日は、天気が雨で、視界が少し悪かったけれど、美しい景色を見ることができました。

メルボルンの市内観光で、日本では出来ないエッジの体感や、おしゃれな建物のある街を実際に散策することができ、文化の違いを感じるいい体験や思い出ができました。



メルボルン見学 6日目

大垣市立赤坂中学校1年 森川 鈴菜

6日目、団員全員でメルボルンに移動し、様々なところを見学しました。その中でも一番印象に残ったところは『ユーレカタワー』という、メルボルンで一番高いビルです。最上階までエレベーターで一気に上がり、メルボルン市内を地上約300メートルから、360度ガラス張りで遠くまで見渡すことが出来ました。

ユーレカタワーの88階にあるタワーの外に張り出した全面ガラスの四角い箱型をしたプラットフォーム、「ザ・エッジ」にも入りました。地上88階を歩いたり、そのまま浮いたりしているような不思議な感覚で、高所恐怖症の私には足元が筒抜けなのはかなり怖かったのですが、スリル満点で、思い出のトップに入っています。また、テラスはガラス張りではなく、地上300メートルの空気に直接触れ、上からたくさんの建物を見ました。上から見て、日本より



高いビルや建設中のビルが多いなあと思いました。アルバートレイク、F1グランプリの会場、世界的に有名なテニスプレーヤー錦織圭選手が実際に毎年試合をしているテニス会場も見ることが出来ました。高い所は怖かったけれど、みんなが会話を盛り上げてくれたおかげで、楽しくいれました。

ユーレカタワーの見学後は、お昼ご飯を食べました。覚悟はしていましたが、やはり外国のハンバーガーは日本の2倍ほどありました。トマトやレタスも大きく、肉が大きすぎてハンバーガーのパンから少しはみ出してしまいうほどでした。油も多かったけ

れど、ポテトを含めすべて食べきりました。昼食後は「フェデレーシェンスクエア」や「セントキルダビーチ」を見ました。セントキルダビーチにはペンギンがいると聞き、少し期待しましたが、昼間には現れず残念でした。

メルボルン・スターという観覧車にも乗りました。日本の4~5人乗りのようなものではなく、10人以上乗せることが出来き、一周するのに30分かかりました。見晴らしもよかったです。自分達が見学した場所を確認しながら乗車しました。写真を撮り合ったり、自分たちで写真を撮ったりして、ここでもみんなと楽しく、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

メルボルンでは、日本ではできないであろう体験をたくさんしました。ユーレカタワー、メルボルンスターでの思い出などと一緒にオーストラリアの良さを伝えていきたいです。



シドニー見学（7日目）

大垣市立安井小学校6年 江原 煌子

7日目の研修では、シドニー見学をしました。シドニーといえば2000年にオリンピックが開催されていたりオーストラリアの経済や文化の中心なのでビルもたくさん建っていたりして、観光客がたくさんいました。私たちは、オペラハウスやハーバーブリッジをマッコリーズ岬から見たり、オーストラリアの動物が間近で見られるところに行ったりしました。

オペラハウスは、世界遺産として有名です。シドニー港にありデンマーク人建築家のutzon氏がデザインしたものが、14年の歳月を経て1973年についに完成しました。今では、オペラやオーケストラ、ミュージカルにバレエなどいろいろなものが公演されています。近くから見てみると大きくて驚きました。オペラハウスとハーバーブリッジを一緒に見たときすごくきれいで感動しました。

ハーバーブリッジは、世界第2位のシングルアーチです。長さは、1149mで幅は、49mです。世界第2位と聞いてすごいなと思いました。造るのにはすごく大変な工事だったと思いました。

また、オーストラリアの動物を間近で見られるところでは、カンガルーにさわれたりコアラを間近で見られたりするなど、すごくいい体験でした。

他にも、シドニーには歴史的建造物がたくさんあって驚きました。いろいろな建物があるなかでユニークな建物もありました。そして、もっとオーストラリアについて知りたくて調べてみたいことができました。この見学でオーストラリアの文化や歴史などがたくさん学ぶことができました。とてもいい経験ができたので良かったです。



オペラハウスとハーバーブリッジ
(マッコリーズ岬より)



歴史的建造物



マッコリーズ岬からの眺め

シドニー見学 7日目

大垣市立東中学校2年 中里 友佳

私たちは7日目の研修で、シドニーを見学しました。まず、マッコリーズ岬へ向かいました。シドニーにはたくさんの古い建築物が今も残っており、バスの中から見た景色は最高のものでした。マッコリーズ岬には、石でできたベンチがあります。これはマッコリー氏が、ホームシックにかかってしまった夫人のために、囚人に作らせたといわれる



イスです。夫人は頻りにこの岬を訪れ、故郷イギリスへ行き来する船を眺めていたそうです。今も残っており、シドニーでは有名な観光地となっています。



その後、オペラハウスに行きました。オペラハウスは、計画当時はまだ無名だったヨーン・ウツソンが設計しました。工事は、完成までに14年もかかったそうです。ヨーン・ウツソンは完成したオペラハウスを見ることなく自国へ帰ったそ

うです。オペラハウスは、2007年に世界文化遺産に登録されています。私はオーストラリアに行く前にシドニーにはオペラハウスがあってとても有名なことを知っていたので、近くで見てみて大きいとしてもきれいな建物だなと思いました。デザインは、ミカンの皮をモチーフとされているとも言われています。また、近くにかかっている、ハーバーブリッジも大きくて、迫力があり、とても印象に残っています。ハーバーブリッジは、1149mで、シングルアーチの橋では世界第2位の長さです。橋全体がハンガーのように見えることから、コットンハンガーとも呼ばれています。

お昼ご飯は、シドニー市内のお店でピザとハンバーガーを食べました。ハンバーガーは日本のハンバーガーとは違ってとても大きかったし、サブとしてついてきたポテトもとても量が多く、日本とオーストラリアとの食文化の違いを改めて実感することができました。

シドニーは、古くて趣のある文化と新しく近代的な文化が両方あってとてもいい街だなと思ったし、何度でも訪れたいなと思いました。また、オーストラリアに行くまでは、シドニーの町は近代的な建物ばかりが立ち並んでいる町だと思っていたけれど川や木々がとてもたくさんあって、自然と建物が一緒にあるのはとてもいいなと思ったし、日本にもそういうところが増えたらいいなと思いました。





みんなの ホームステイの思い出



5日間のホームステイ

大垣市立安井小学校6年 江原 煌子

私は、初めてのホームステイですごく不安でした。でも、ホストファミリーは笑顔で迎えてくれたので安心しました。

オーストラリアでのホームステイで思ったことは、日本と違うところが多いことです。家は大きく庭も広くトランポリンが置いてありました。日本の一般的な一戸建ての家より大きく感じました。島国である日本に対して大陸であるオーストラリアではこのように大きな家を立てることができるのかと驚きました。朝起きると肌寒かったです。朝ごはんは、パンとフルーツがよく出てきて基本的にお母さんが作ってくれました。

学校のときには、7年生のシャーロットと一緒に登校して授業を体験しました。

学校が休みの日には、動物園やメルボルン市内の美術館に行きました。動物園では、カンガルーやコアラにウォンバットなどオーストラリアにいる動物がたくさんいました。そして、すぐ近くで見ることができました。美術館では、いろいろな色できれいに描かれていました。昼には、ローストビーフを食べました。すごくおいしかったです。やっぱり、オーストラリアの食事の量は日本よりも多くて食べきるのが大変でした。

帰る日の前日には、シャーロットから手紙ももらいました。オーストラリアの人達は、いつも笑顔でやさしい人達です。だから、学校でもホームステイ先でも自然と打ち解けることができたと思いました。

私は、初めて来た場所や日本との文化も違う所でのこのような体験ができてすごくよかったと思いました。また、こんな体験をさせてくれて本当に感謝しました。これからは、この体験を活かすために自分から周りの人へ情報を発信していきたいと思います。



ホームステイ先の家



ホストファミリー



動物園のコアラ

I had a great time in the homestay !!

大垣市立日新小学校 6年 中西 美来

私のホストファミリーであるラミー家は、お父さんがオリビエ・お母さんがセシル・長男がポール・長女がジャンヌ・次女がローズ・次男がジョセフという6人家族でした。さらにミナという猫を飼っていました。私は8人目の家族として迎え入れてもらえました。



ラミー家の皆さん

事前にメールで家族写真をもらっていたので、私は行くまでにみなさんの顔と名前を覚えておきました。またお土産は顔を思い浮かべてひとりひとりに喜んでもらえるものを心を込めて選びました。

ホストファミリーに初めて会った時、とても緊張したけれど優しく接してくれて安心しました。家に入ると、その広さに驚きました！玄関は広く、廊下が長くて部屋がたくさんありました。ひとつの部屋が私専用の部屋として貸してもらえました。その部屋もとても広く、シャワーやトイレもあり、まるでホテルの部屋のように私一人で使うのはもったいないほどでした。オーストラリアは国土が広いので家が広く、ゲスト専用ルームもあり、狭い国土の日本の住宅事情との文化の違いをまずひとつ感じました。夕食にはカレーが出ました。ご飯が日本のふっくらとした米ではなく、細長い米でした。その米は私にとって正直おいしいものではありませんでしたが、文化の違いをまたひとつ感じることができました。

事前研修でオーストラリアは水が大変貴重なためシャワーを短くするように言われていましたが、特に何も言われませんでした。日本と違いバスタブにお湯をはって温まるということができなかったのも、シャワーだけだととても寒かったです。

休みの日には近くのビーチに行ったり、野生のカンガルーを見るために山に登ったりしました。カンガルーは山の中に何頭もいて、こちらをじっと見ていました。動物園でしか見たことのないカンガルーが山のあちこちにいることにとても驚きました。他にはトラムに乗ってメルボルンに出かけ、マーケットや図書館に行きました。

楽しい時間はあっという間に終わり、お別れの日がきました。早朝にもかかわらず、ラミー家のみなさんは起きて見送ってくれました。みんなとハグして別れました。猫のミナも見送ってくれました。私は悲しい気持ちになりましたが笑顔でお別れしました。



野生のカンガルー

この研修を通して、自分の英語力のなさに失望しました。ちょっとした会話もできないもどかしさ、自分の気持ちを伝えることのできなくやささを味わいました。中学校では英語の本格的な勉強が始まります。私は今回の気持ちを忘れずに、一生懸命英語の勉強をしたいと思います。そしていつか、今回よりもずっと英語を話せるようになって、またラミー家に会いに行きたいと思っています。



ビーチにて

ホームステイでの生活

大垣市立多良小学校6年 三輪 七星

私のホームステイ先は、オーストラリア出発の二日前にやっと決まったお宅でした。急にホームステイをお願いされて大変だったはずなのに、ホームステイ先の方は明るく迎えて下さいました。一人でホームステイするのは不安だったけれどもう一人森川鈴菜さんがいてすごく安心しました。日本のお土産の「らくがん」を渡すと、とても喜んでもらえました。「らくがん」は、「Eating?」と聞かれたぐらい繊細に作られていて、驚いてみえました。こちらのお土産も喜んでもらえました。

四日目に、バーベキューをしました。バーベキュー場に行くのではなく、公園の中にそんなスペースがありました。そこには、派遣団のメンバーの半分がそろっていました。公園には、日本にはないスリリングな遊具がたくさんあってとっても刺激的で、楽しさで何回も遊んでしまいました。バーベキューは、日本とは違って、パンにソーセージをはさんだり、野菜をはさんだりするものでした。お菓子などの持ち寄りもしていて、オーストラリアのお菓子をたくさん食べる事が出来ました。日本とは違うバーベキューだったけれど、こんなバーベキューもいいなと思いました。

その夜、ホストファミリーのいとこが来ました。なんと、いとこは日本人とオーストラリア人の両親をもつ方でした。いところにも、お土産をもらいました。さらに、いとこがケーキを持って来てくれました。みんなで食べたのですが、砂糖がたくさん入っていて日本のケーキよりも甘かったです。日本語を少し知っていたので、食事の時に「いただきます」と言ってくれました。いとこはすぐに帰ってしまいましたが、とても楽しかったです。



五日目には、動物園に行きました。動物園では、鳥のショーがあったり、オーストラリアの動物、コアラやカンガルーなどがいたり、初めて見る動物もいっぱいいて、来てよかったなあと感じました。日本の動物園とは違って、ほぼ動物が放し飼いにされていました。昼食を食べている時にも、鳥がすぐ近くまで来て、動物を間近で見たことのない私にとっては、貴重な体験になりました。



ホストファミリーとお別れする夜に部屋にホストファミリーが来て、女性とはハグ、男性とは握手をしました。ホストファミリーと別れるのはさみしかったけれどお礼の手紙を二人で書いて渡しました。

ホストファミリーとの生活は、日本にいただけでは体験できないことを、たくさんすることが出来ました。一生思い出に残るホームステイ生活になったので、もう一度行ってみたいと思いました。でも、英語が上手く話せなかったのが、次行くときは、英語がもっとたくさん話せるようになってから行きたいです。その為には、今から、英語の勉強を

もっと頑張ってお話できるようにしたいです。

一生の思い出ホームステイ

大垣市立小学綾里校 6年 安田 翔星

ホストファミリーにはじめてあった時は、どきどきしたけれど、とても優しく歓迎してくれました。1日目は、移動ばかりで疲れていたけど、ホストファミリーは、「大丈夫？」など、声をかけてくれました。

ホームステイ1日目は、恥ずかしくて何を話せばいいかわからなかったけど、ホストファミリーは笑顔でたくさん話しかけてくれました。おかげで楽しく会話できたし、お土産を渡したら、とても喜んでくれました。日本では当たり前の、消せるボールペンは、オーストラリアには、ないようで、特に喜んでもらえて、日本の技術のよさがわかりました。ホストファミリーからもらったお土産は、コアラのぬいぐるみや、カンガルーのぬいぐるみ、オーストラリアで人気のお菓子に、フットボールなどをもらいました。そしてそのフットボールでホストファミリーとフットボールをした事がとても印象に残っています。

研修4日目は、バーベキューをしました。バーベキューは、他のホームステイ先の家族とやって研修派遣団の半分ぐらい集まりました。驚いたことは、日本のバーベキューと言えば、肉だけどオーストラリアでは、肉よりケーキなどのお菓子のほうが多く出されました。オーストラリアは、肉ばかり食べるイメージがあったけど全然肉を食べていなかったのが驚きました。

その夜、野生のペンギンを見に海に行きました。そこには、何十匹ものペンギンがいて、ペンギンは、すぐ近くまで寄ってきて、あまりのかわいさに、触りたくなるほどでした。

次の日、僕は、山登りに行きました。登る途中にカンガルーやワラビーやクジャクなどを見ることが出来ました。途中、足が痛くなるハプニングもあったけど、何とかゴールにたどり着くことが出来ました。そこには、大きな滝があり、その美しい景色を見たら、足の痛みも忘れていました。

ホストファミリーとの食事で心に残ったのは、カンガルーのステーキを食べたことです。ホストファミリーと買い物に出かけたときに、スーパーには、カンガルーの肉が売られていて、ホストマザーに、今夜は、カンガルーのステーキだと、言われた時、僕は、かわいそうだし、おいしくないんじゃないのと、思ったけど、意外においしくて、日本にもあったらいいなと思いました。

ぼくは、このホームステイで、さまざまなオーストラリアの文化を知ることが出来てさらに、もっといろいろな国のことを知ってみたいと思いました。



カンガルーのステーキ

オーストラリア研修を終えて

大垣市立南中学校 1年 中尾 友紀

私は、このオーストラリアでの研修を通して、主に3つのことを学ぶことができました。

1つ目は、コミュニケーションについてです。この研修では、飛行機で移動、約5日間のホームステイを体験しました。空港では、入国審査などの時、ホストファミリーの家では、日常生活などの時、また、買い物の時、英語を使うことが必須となりました。



最初は、とまどってしまいましたが、単語だけでも通じることが分かり、簡単な受け答えだけは出来るようになってきました。また、この研修では、2日間はホストファミリーと過ごすというプログラムが組んであり、ホストシスターのMikiさんと、その友達5人で、日本のイオンモールのような大きなショッピングセンターへ行き、買い物をしたり、映画を見たりしてきました。映画は、ゴーストバスターズを見たのですが、全て英語で、Mikiさんの友達の話す会話も、とても速くて何も理解できない状態でした。

一生懸命、翻訳機能を使ったり、日本語で話しかけたりしてくれましたが、文末のイントネーションの違いで、疑問文なのか肯定文なのかかわからず、会話がスムーズにできませんでした。私たちが、毎日普通に会話をして、コミュニケーションがとれることは、こんなに幸せな事なのだと強く思いました。



2つ目は、世界観が広がったことです。オーストラリアには、今まで見たことのない建造物、ビルがたくさんありました。その街並みは、洋画に出てくるようで、とてもカッコよかったです。また、オペラハウスなど、世界遺産をみることができ感動しました。



そして、ガラス張りで、南半球で一番高いユーレカ・スカイデッキ88に登ることができ、美しい景色に感動しました。街の雰囲気は、そこに実際行ってみないと体感できないので、とても貴重な経験となりました。

3つ目は、日本文化の良さです。日本では食事の時に、必ず「いただきます。」や「ごちそうさま。」などのあいさつをしますが、オーストラリアには、その習慣がなく、また、箸ではなく、フォークやナイフで食べるが多かったのも、文化の違いを感じました。さらに、買い物の時ですが、店員は無愛想で仕事が雑で、

値札もきちんとしておらず、割れ物でも包んでくれませんでした。日本では接客でおもてなしの心や気遣いが当たり前なので、これは日本文化の良い点なのだとありがたさを感じました。

私は、このオーストラリア研修を終えて、日本との文化の違いを学び、日本から離れて海外の景色を見ることができ、今まで大変視野の狭い中で生きていたことを痛感しました。もっといろいろな国へ出かけて、さらに違った景色を見たいと、強く思いました。最後に、自分の英語のコミュニケーション能力のなさも痛感したので、もっと英語を聞いて、会話ができるように勉強したいと思いました。今回の貴重な体験をもとに、これからの生活に生かしていきたいです。



5日間のホームステイ生活 ～一期一会を大切に～

大垣市立中学校1年 森川 鈴菜

私がお世話になったホストファミリーは、Miller(ミラー)一家でした。5人家族とペットの猫、ハムスター2匹の大家族でした。みんなとても社交的でたくさんのお話を聞かせてくれました。中でも同い年のClaudia(クラウディア)とはよく話し、色々な遊び相手となってくれました。

初めてホストファミリーと対面した歓迎レセプションの時、初めて面と向かって外国人と話したので、緊張と焦りで頭が真っ白になりましたが、何とか自分のことや自分の家族のことを伝えようとジェスチャーを使いながら、話すことが出来ました。ホストファミリーの方もそれを頑張って聞き取ろうとしてくださいました。

ホストファミリーとの生活2日目は、グレンアイラカレッジへ行きました。一番初めに感じたことは、学校の中にも自由が溢れていて、日本とはやはり全く違うことです。昼休みにおやつを食べたり、授業中もおやつが出されたりしたのは驚きました。授業では、体育が一番楽しかったです。クラウディアたちと一緒にバスケットボールをしました。バスをミスしたり、上手く出来なかったりしましたが、みんな「大丈夫」と言ってくれて助かりました。石のアボリジニーペイントも上手く出来ました。

ホストファミリーとの生活3日目は、公園でBBQをしようという話になりました。公園には定番のブランコや滑り台、ジャングルジムなどたくさんの遊具がありました。BBQは私のイメージと違い、パンにソーセージと野菜を挟んで食べるホットドック風でした。アメリカの様に肉を豪快に焼いて食べるのかなあと想像していたため意外でしたが、とてもおいしかったです。

ホストファミリーとの生活4日目は、動物園へ行きました。名前も知らない鳥が数多くいましたが、私は特にイーグルがかっこいいなあと思いました。でもやはり、カンガルーとコアラが印象的です。カンガルーは赤ちゃんが袋の中にいるのを見ることが出来ましたし、コアラは木の上で寝ているイメージしかありませんが、ユーカリの葉をむしゃむしゃとおいしそうに食べているのがとても可愛かったです。

本当に楽しい時間を満喫することが出来ました。毎日がとても充実していて、もう少し研修を続けたいなあ…と思うほどでした。ホストファミリーの方々は本当に優しく、明るく、たくさんのお話を教えていただきました。

オーストラリア研修でのホームステイを通じ、何とか意志を伝えようとするコミュニケーション力、自分の英語力がまだまだ足りないこと、世界は広く、私の知らないことがたくさんあることなど、多くのことを学ぶことが出来ました。市の代表として、このような貴重な経験の場を提供いただいた、交流協会の方々・仲間・ホストファミリーの方々、そして家族に感謝し、よき思い出として心に刻み、これからの人生に生かしたいと思います。



素敵なホームステイ♪

大垣市立東中学校2年 中里 友佳

不安もありながらも1番楽しみにしていたホームステイの生活。でも2日目の市役所での歓迎レセプションは緊張ばかりでした。しかし、ホームステイ先の家族は「うまく会話ができるだろうか」と不安に思っていた私に笑顔で分かりやすく会話をしてくれたおかげですぐに緊張がほぐれ、楽しく会話が弾むようになりました。私は英語がペラペラと話せません。時には会話中に内容がわからず会話が止まってしまうこともありました。私でも分かる、より簡単な英語で話してくれました。



ホームステイ先の家族と...

ホームステイ先の家族には、エロイーズという日本でいう高校1年生の年の女の子がいました。エロイーズはとてもフレンドリーですぐ仲良くなることができました。好きなものがお互いで似ていたのも、その話ですごく盛り上がりました。ホームステイでは、他のメンバーがいないので時々寂しくなることもありましたが、1人だとすぐ声をかけてくれるのでとても楽しかったです。お母さんとお父さんはとても優しくとても面白い人でした。また、日本の文化にとても興味がありました。夜ご飯にお米が出てきたり、日本の習慣で私が「いただきます」や「ごちそうさま」などと言うと、「その日本語の意味は何？」などと聞いて一緒に言ったりしました。家族には、りんという日本の留学生の女の子がいました。りんは私が困っていると通訳してくれました。すごく英語をペラペラに話していたので私もそうなりたいと思いました。

ホームステイ3日目にグレイアイラ市内の動物園に行きました。そこにはコアラやカンガルーはもちろん、日本では見たこともない変わった鳥などたくさんの種類の動物がいました。私は、ワラビーの餌やりを体験しました。ワラビーは私にはすくなくついて簡単に餌やりや頭をなでることができたのですが、エロイーズにはあまりなつかず逃げられてしまいました。とても面白かったし、何よりもとてもかわいかったです。



ホームステイを終えて、私は人と会話をするときに人の目を見られなかったり、初めて会う人とはうまく話せなかったりするけど、ホームステイで仲良くするためには笑顔で目を見て話すことが

大切だと学んだのでこれからは経験を生かしていきたいです。また、英語力の無さが現地の人と話してみても改めて実感したのでこれからはもっと勉強をして、もう一度海外に行って、楽しく会話ができるようになりたいです。



家にいたネコのガーリックとチャイナ

Special experience

大垣市立江並中学校2年 松本 優羽

僕のホストファミリーは、3人兄弟のいる5人家族でとても貴重な体験をさせていただきました。8月20日の朝は、サーフィンをしにグレンアイラ市から遠く離れた海へ出かけました。ガイドさんから説明を聞き、「いざ入水!・・・」と意気込んで入ったものの、オーストラリアは真冬で、海水はとて冷たくて震え上がりました。砂浜から数十メートル離れた所まで行き大きな波に乗ると、とんでもないスピードで、あっという間に砂浜に戻されていました。残念ながらあまりの速さにサーフボードに立つことはできませんでした。こうして僕の初サーフンは幕を閉じました。次の日は、動物園に行きました。オーストラリアで有名なコアラやカンガルーは



真冬のサーフィン



僕に懐いたかな?



もちろん、カラフルな色の鳥をたくさん見ることができました。その鳥達はどうやら街中を普通に飛び回っているようで、その日の帰り道でも何羽かを見ることができました。

ホストファミリーとの最後の夜、僕の家族とホストファミリーがビデオ通話をしました。初めはどうなる事かと思ったけれど、僕の通訳を通して会話をすることができました。日本とオーストラリアがとても身近にあるように感じました。その他にも、一からピザを作って食べたり、同級生のクレメントさんの弟の誕生日パーティーを開いたり、持ってきたお土産を英語で説明しながら渡したり、折り紙やゲームをしたり



ピザ作り



日本にいる家族と通話



など、最高の一週間を過ごすことができました。

オーストラリアで僕にいろいろな体験をさせてくれたホストファミリーの方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。また生活習慣や学校生活など

クレメントさんと折り紙



文化の違いについてたくさん知ることができました。このホームステイで学んだことや経験したことを今後活かしていきたいです。そして英語を更に勉強し、またオーストラリアに行きたいです。



ホストファミリーと「はいチーズ!」

ホームステイを終えて

大垣市立北中学校3年 山崎 美弥

私はホストファミリーと会う前、とても不安でした。英語は上手に話せないし、初めて外国の方と接するからです。極限まで緊張していました。しかし、ホストファミリーの人達と実際に会ってみると、ハグをしてくれたり、とてもフレンドリーに話しかけてくれました。そのため、リラックスして自己紹介ができました。一緒に生活している間も色々な話をしてくれたり、ホストブラザーはゲームにも誘ってくれました。その他にもホストマザーと料理をしたり、ホストシスターと学校へ行ったりして本当の家族のように過ごすことができました。

そんな中で日本(人)と違うなと感じたことがいくつもありました。

まず、最初の日に野生のペンギンを見に、夜、海へ連れて行ってもらいました。身近に野生のペンギンいるというのも珍しい事ですが、その道中に木が生えていたのです。この時、オーストラリアの季節は冬なので疑問に思いました。すると、ホストファミリーが「ヨーロッパの木は冬枯れてしまうけど、オーストラリアに昔からある木は一年中枯れないんだよ。」と教えてくれました。そのようなこともあり、オーストラリアには自然が身近にたくさんあるのかなと思いました。日本では建物中心のところが多いので、大きな違いだと思います。

次の日の学校訪問でも驚いたことがありました。学校におやつをもっていったいいのです。しかも、どこで昼食をとってもいいのです。これは予想外でびっくりしました。

また、ある夜に仲の良い家族を招き、パーティーをしたのですが、テンションがとても高いと感じました。日本人はシャイで初対面の人とはあまり接することはないと思いますが、オーストラリアの人は積極的でそのテンションについていけないほどでした。

その他にも動物園へ行った際、見たことのない生き物がたくさんいたので驚きました。



本当に一つ一つのことが新鮮でいい経験になりました。「英語をもっと勉強しよう」「日本の文化と外国の文化の違いはこんなところにあるんだなあ」「日本と比べるとここはいいな、ここはちょっとな」……。たくさんの思いを胸に抱えて帰国することができたと思います。私は中3なのでこれらの事をふまえて、高校を選択していきたいし、将来にも関わらせていきたいです。

第6回 大垣市小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣事業
研修スケジュール

<事前研修>

	日時・内容	場所
第 1 回	6月26日(日) 13:30~15:30 ・自己紹介 ・事務局からの説明 ・旅行社からの渡航手続等説明 ・次回の研修に向けて	スイトピアセンター 男女共同参画活動室
第 2 回	7月9日(土) 10:00~16:00 ・目標、パフォーマンス決め ・オーストラリア文化講座 ・調べ学習	スイトピアセンター 男女共同参画活動室
第 3 回	7月16日(土) 10:00~16:00 ・英語講座 ・国際理解講座(ドイツ派遣と合同) ・調べ学習の発表、パフォーマンスの練習	スイトピアセンター 男女共同参画活動室
第 4 回	8月6日(土) 10:00~17:30 ・英語講座 ・過去の派遣団員との交流会 ・パフォーマンスの練習 ・出発式の練習	スイトピアセンター 男女共同参画活動室
出 発 式	8月8日(月) 11:00~11:30	スイトピアセンター 特別会議室

派遣期間	8月17日(水) ~ 8月24日(水)
------	---------------------

<事後研修>

	日時・内容	場所
第 1 回	9月22日(木・祝) 10:00~16:00 ・報告資料作成 ・報告会の練習	スイトピアセンター 男女共同参画活動室
第 2 回	10月8日(土) 10:00~16:00 ・報告資料作成 ・報告会の練習	スイトピアセンター 男女共同参画活動室
報 告 会	11月19日(土) 13:30~15:30	スイトピアセンター スイトピアホール



【第6回 大垣市小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣報告書】

編集 公益財団法人 大垣国際交流協会
大垣市室本町5丁目51番地 スイトピアセンター学習館2階
TEL 0584-82-2311
FAX 0584-82-2314
URL <http://www.i-oiea.jp/>

発行 平成28年11月